

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム (2016年7月改訂) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋ホテルPJT	階数	地上14F、地下1F
建設地	名古屋市中区栄5丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年4月 予定	評価の実施日	2023年2月15日
敷地面積	2,350 m ²	作成者	
建築面積	2,052 m ²	確認日	2023年2月15日
延床面積	20,772 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

= BEE1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 77%
③上記+②以外の 77%
④上記+ 77%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.3

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		その他
総合 「Biophilia Nest (バイオフィリア ネスト) / 自然に包まれた居心地の良いホテル」をコンセプトに、前面の久屋大通公園に広がる自然豊かな環境との調和を重視した計画としている。凹凸のあるヴォリューム構成により生まれた外部空間に緑化を施し通りへの賑わいや景観に配慮するとともに、内装に石や木など自然素材を多用し高級感あるデザインとしている。		
Q1 室内環境 屋光率を高めに設定し、ブラインドや庇による屋光制御を行うなど光・視環境に配慮している。また、F☆☆☆☆、VOCの放散量が少ない建材を採用するなど空気質環境にも十分配慮している。	Q2 サービス性能 宿泊室の面積を大きくとり、高度情報通信設備を充実、天井高さも十分に確保するなど、機能性や心理性・快適性に配慮している。	Q3 室外環境 (敷地内) 外部空間や屋上に緑地を設けることにより良好な景観を形成している。ピロティ空間を設けるなど、都市空間の活動上のアメニティ向上に貢献している。
LR1 エネルギー カーテンウォールによる自然採光を積極的に利用している。また、高効率空調機、LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮し、建物の消費エネルギー量を把握することで効率的運用にも配慮している。	LR2 資源・マテリアル リサイクル資材を採用するなど非再生性資源の使用量削減に配慮している。また、O.Aフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	LR3 敷地外環境 運用時のLCCO ₂ 排出量を低減し、地球温暖化へ配慮している。また、適切な量の駐車場を確保し利便性に配慮、荷捌き車両の駐車施設を確保するなど交通負荷の抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋ホテルPJT

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.5
LR1	エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.1
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.4
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.5



2. 自然共生

評価点 = 3.1



3. 循環型社会

評価点 = 3.4



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2)において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。